

不飲川川づくり懇話会問答集

この問答集は、「不飲川 川づくり懇話会」でいただいた質問・意見に回答します。

会 議 名	開 催 場 所	開 催 日
不飲川 川づくり懇話会	愛荘町愛知川庁舎	平成 19 年 8 月 22 日 (水)

不飲川 川づくり懇話会 問答集

分類	質問・意見	回答	備考
工事 予 定 ・ 工 事 内 容	平成 20 年度は用地測量、平成 21 年度は用地買収、平成 22 年度は施工開始と考えてよいのか。	地下水調査や検討・解析および詳細設計の期間等を考慮すると、平成 22 年度工事開始は物理的にも困難であると考えています。また、財政面でも厳しくなっており、何時、用地買収の交渉が始められるか、具体的にお示しできる状況ではありません。	
	平成 20 年には全部の測量が終わるのか。		
	改修はこれから 4・5 年ではできないのか。		
	改修計画は、今やっている調査が済んでから考えるのか。基本的な考え方だけでも聞いておきたい。	改修の基本的な考え方（放水路を建設して愛知川へショートカットする）は河川整備計画を策定した時から変わりありません。なお、現在は最新の地形測量や地下水位の情報収集など、工事を進めていく上で必要な調査を行っております。	
	河川改修は、道路改良と同時に進めるのか、別なのか。	「神郷彦根線」という新しい道路を計画中であり、この道路は不飲川放水路が愛知川へ合流する付近で橋梁を架設する予定です。よって、この橋梁の諸元を決定するために、不飲川の改修計画諸元（改修後の川幅等）と整合を図る必要はありますが、必ずしも同時に工事をするということではありません。	
	不飲川改修も難しい面はあるが、浸水対策を早急に解消する案（愛知川へのショートカット案）はできているので、県はそれを実現する努力をして欲しい。	ご意見を真摯に受け止めて、放水路の早期完成に向けて今後も努力をしていきたいと考えています。	
これまで 30 年間で工事が何も進んでいない状況は、少し時間がかかりすぎている。用地買収の終わっている下流部から順次工事を進められないのか。	愛知川へショートカットすると、洪水時には愛知川の水が逆流することになります。この逆流による浸水を生じさせないためには、不飲川放水路の堤防を愛知川の堤防と同じ高さにする必要があります。そのため、不飲川の改修は放水路区間全ての用地買収、堤防設置が完了してから掘削という順序になり、下流から順次工事を進めることは不可能です。		

不飲川 川づくり懇話会 問答集

分類	質問・意見	回答	備考
工事内容	今やっている地下水位調査の意味は。	新しく放水路という川をつくることによって地下水位がどのように変化するかを調べるために実施しています。現在は工事前の地下水位の把握ということになります。	
維持	ヨシ刈りをした後の根が下流に流れて不飲橋付近にたまっている。	平成 18 年度には旧中山道より上流の浚渫をしましたが、今年度は引き続き旧中山道から下流の区間の浚渫を行う予定です。	
	不飲橋の下流に汚泥（土）がたまって、河川の機能を失っている。河川の維持管理は予算の有無に関係なく滋賀県がやるべきことでは。		
	不飲川の改修が早々に進まないのであれば、年に何回かはヨシを刈って少しでも水の流れをよくして欲しい。		
	災害を防ぐためにも、日常の管理にもっと関心を持ち、お金をかけて欲しい（維持管理予算を確保して欲しい）。	このような地域の方の意見を真摯に受け止めて、予算の確保に向けた努力を今後も行って行きたいと考えています。	
	公共事業が全体的に否定されている訳ではなく、災害が発生する前に河川改修工事や維持管理が必要である。	ご意見を真摯に受け止めて、これからも河川管理に努めていきたいと考えています。	
	農家が減っていることが河川の維持管理を難しくしていると考えます。しかし、不飲川は一級河川なので滋賀県がリーダーシップをとって、地域の協力を求めながら維持管理を進めて欲しい。		
予算	毎年の河川の保全（維持管理）の予算はどれくらいあって、目に見える対策はどれくらいできるのか。	湖東地域振興局管内では 41 河川約 240km の一級河川を管理しており、今年度の浚渫、草刈り、施設補修費を合わせた維持管理予算は約 1 億円程度であり、手厚い維持管理は困難な現状です。	
	予算が無いとばかり言っているが、財源を確保するための工夫を考えているのか。例えば、道路の特定財源のように、河川の維持管理予算でも特定財源化できるものを提案できないか。	ご意見を真摯に受け止めて、これからも河川管理に努めていきたいと考えています。	

不飲川 川づくり懇話会 問答集

分類	質問・意見	回答	備考
予算	少ない維持管理費を全ての河川に使えば小さな額になってしまう。例えば DID 地区に近い所は優先的に使える様な財源の工夫や、その財源を確保するための工夫を湖東地域振興局から提案できないのか。	ご意見を真摯に受け止めて、これからも河川管理に努めていきたいと考えています。	
その他	開発規制はいつの時点で考えているのか。	放水路予定地内での虫食いの開発による事業への影響を防ぐためにも、早急に最新の地形測量に基づく計画図を作成し、用地幅を決めることで、改修予定地を明確に示すことができるようにします。	
	放水路計画法線で企業開発があったらどうするのか。		
	河川に何か起こった時や苦情等はどこに連絡をすればいいのか。	河川管理者である湖東地域振興局建設管理部河川砂防課に連絡をください。あるいは愛荘町の建設課を通じて河川管理者に連絡いただくことも可能です。	
	公共事業全体が否定されているわけではない。あまり消極的にならず、積極的に「具体的にこういう風に立派な川にして災害に対応できる川をつくる」という対策をたてて欲しい。	ご意見を真摯に受け止めて、これからも河川管理に努めていきたいと考えています。	
	改修イメージ図まで書いていて、いつできるか分からないというのはおかしい。		
	不飲川の改修により、6月の大雨で川が溢れた大津井川（普通河川）の水位も低下するのか。	大津井川（普通河川）は額戸川の流域と考えられ、流域が異なることから不飲川改修によって大津井川の浸水が解消できるものではありません。	
大津井川（普通河川）を宇曾川にショートカットして水位を下げることはできないか。	手元に詳しい資料はありませんが、地形的な条件（大津井川と宇曾川の高さ関係）から大津井川を宇曾川へショートカットすることは不可能と思われる。		
流域治水	「そなえる」は実行できるのか。どういう形（予算）でやるかを考えなければならない。	ご意見を真摯に受け止めて、これからも河川管理に努めていきたいと考えています。	
	水田に水が貯まるということは、貴重な治水対策であり、洪水時も水田の価値はある。		

